

③令和4年度国立大学法人茨城大学と水戸市との連携協力による学校支援活動報告書
水戸市教育委員会

1 支援活動の実施状況

区分	活動人数	延べ活動日数	主な活動内容
幼稚園	4	23	日常保育補助、行事補助
小学校	48	161	授業における学習支援、学校行事の補助、校外学習の引率補助、特別な配慮を要する児童に対する個別支援等
中学校	9	67	学校行事の補助
合計	61	251	

2 幼稚園・認定こども園・小・中学校の支援活動実施後の感想等

(1) 幼稚園・認定こども園

- ・職員の指示に従い、主な活動として日常保育の補助を行った。年間を通して定期的に活動に来てくれたおかげで、幼児からも親しまれ、幼児の目線に立ち、優しく関わる姿や疑問に思ったことを職員に質問する姿、自分ができることに積極的に取り組もうとする姿があった。本園での活動が、学生にとって力になってくれることを願っている。
- ・臨機応変に対応し、落ち着いた雰囲気で幼児と笑顔で関わってくれた。

(2) 小学校

- ・一人一人の児童に寄り添い、学習の補助をすることができた。15回にもわたり、支援をしてくれたため、最終日には涙を流す児童が多くいた。
- ・運動会の進行補助に積極的に取り組み、自主的に児童へ関わり、対応も適切だった。片付けでは、個々に判断して率先して作業に取り組んだ。
- ・運動会の補助では、児童の様子を見守り、必要に応じて援助している姿が見られた。また、片付けを積極的に行っていった。
- ・水泳学習中にプールサイドから、児童の様子を観察してもらった。安全確保のため、複数の目で児童を見守ることができ、大きな事故もなく水泳学習を終えることができた。進んで児童の様子をよく見て、声かけや誘導等を適切に行っていたため、教員は水泳指導に集中することができた。
- ・礼儀正しく、教員との打合せの内容をしっかりと理解して活動することができた。児童が規律ある集団行動がとれるよう、声掛けをしたり、安全・安心に活動できるよう見守りをしたりと責任ある行動がとれた。

- ・1年生の遠足における補助では、特別な支援を要する児童を中心に付き添ってもらった。グループ活動では、集合場所や時間を児童に伝える声掛けをしたり、安全を意識しながら活動を共にしたりと丁寧な支援を行うことができた。
- ・陸上練習の補助では、専門性を活かし、競技全般について適切な助言や支援を行った。
- ・学習内容の理解が難しい児童に声をかける等、担任の補助的な役割をしてくれたので、児童は学習内容を理解することができた。
- ・保健室の業務の補助をスムーズに行っていた。特に、児童に優しく丁寧に声掛けをし、児童は安心して保健室で過ごすことができた。
- ・時間を守り、あいさつがしっかりできていた。特別な支援を要する児童の話をよく聞き、笑顔で接していた。児童に声をかけたり、一緒に活動したりしていた。

(3) 中学校

- ・部活動の指導では、個に応じた指導を行うことができた。人柄もよく、中学生に慕われていた。
- ・体育祭の看護補助では、負傷した生徒の怪我の手当や、記録の作成等を積極的に行った。丁寧な対応と支援により円滑に救護係の活動を進めることができた。
- ・学習支援では、生徒の学習の様子を見取りながら、いつも笑顔で積極的な声掛けやサポートを行った。
- ・活動の目的や内容をよく理解し、教員の指示を的確に遂行することができた。教員の手が足りないところを補助していただき大変ありがたかった。

3 教育委員会からの感想、要望

学校支援活動に関わっていただいた学生の皆さんには、大変感謝しております。学校行事の支援から学習支援まで、様々な学校支援活動に積極的に参加していただき、子供たちに温かく関わり、教員や保護者等に対して礼儀正しく接していただきました。多くの子供たちが学生の皆さんの笑顔や声掛けに励まされ、より充実した学校生活を送ることができました。

学校（園）の感想から、意欲的に活動する様子や子供たちに寄り添い、励ます姿が見られ、学校（園）からは学校支援活動を今後もお願いしたいという声が多くあります。

学校支援活動は、自分の成長や可能性を広げ、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、社会人に必要なスキルを身に付けることにつながると考えております。また、人とのつながりが生まれ、同年代だけでなくいろいろな年代の人とつながりを持つことで、経験を豊かなものにしてくれます。

今後は、学校の教育活動を学生に支援していただくばかりでなく、教職を目指す意欲的な学生やボランティア活動を希望する学生を学校現場から支えるという面も意識しながら、より多くの学生の皆さんに参加していただけるよう学校支援活動の推進に努めてまいります。